

大久保地区育成委員会だより

第34号

新宿区大久保地区青少年育成委員会

広報部 TEL 3209-8651

令和2年2月号



地域とともに百四十周年

大久保小学校

副校長 山下智美

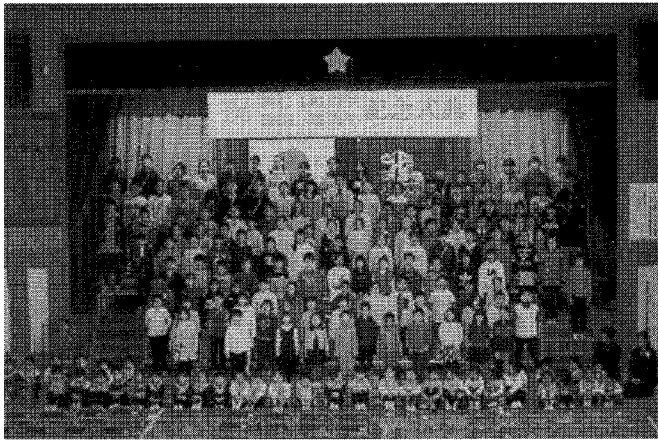


今年度より大久保小学校の副校長としてまいりました山下智美と申します。どうぞよろしく願っています。

赴任してからまだ一年経っておりませんが、地域・保護者の皆様、地域に対する愛情が大変深いのだと実感したことが何度もありました。皆様とともに参加させていただいた研修会やお祭りなど、とても活気があり地域全体が盛り上がる雰囲気を感じて心地よいです。課題に対しても前向きに改善案を出し、みんなで何とかしようとしている様子を拝見し心強く感じております。大久保小学校の子どもたちが、この温かい地域の中で楽しませていただいたり、見守っていただいたりしていること、この場を借りてお礼申し上げます。

大久保小学校は今年度、開校百四十周年を迎えました。

学校では一学期から航空写真を撮ったり、子どもたちの夢や思いを載せた記念誌を作ったりしました。また、バースデイケーキもみんなの力を合わせて完成させることができました。六年生は周年式典の日を華やかに飾れるようにと、折り紙でつつじの花をたくさん折りました。その花は地域の方々のお力添えで、本物の生け花のように姿を変え、式典の日の控室等を彩ってくれました。式典に向けてのお手伝いや記念品を頂戴す



るなどのかかりだけでなく、実際に協力して一つのものを作り上げる活動ができるのも、この地域のよさだと心が温かくなる出来事でした。

周年の式典当日は、大勢のお客様に来ていただきました。式場となった体育館は非常に寒く、ご列席の皆様にはご苦勞をおかけしてしまいました。その場にいる全員が「百四十周年をお祝いする」という一つのことに向かって晴れやかな気持ちになったことは、子どもたちにとってもよい経験になりました。開園五十五周年を祝う幼稚園の子どもたちもおりましたので長い時間だと感じたかもしれませんが、厳肅な雰囲気も味わいつつ、多くの方々が大久保小学校・大久保幼稚園を大切に思っていることも改めて知ることができたはずです。これまた、子どもたちと地域の距離が縮まりました。私たち教職員も、周年行事の取組を通して地域の方のお顔やお名前を今まで以上に覚えることができ、ご挨拶もしやすくなりました。

この周年を機に、地域と学校との関係がさらに深まると信じております。日頃の挨拶のやり取りや学習の支援など、今まで積み上げてきた大切な取組をこれからも続けていけるよう、学校も一丸となって進んでいきます。



「土曜スクール」の取り組み

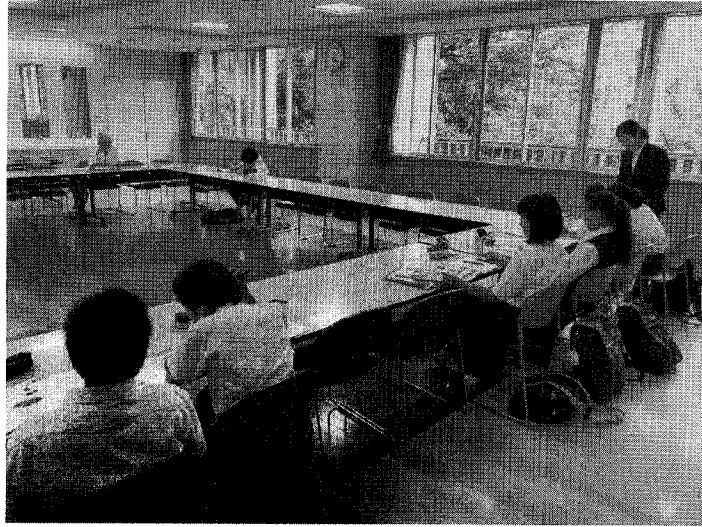
新宿中学校

副校長 大田黒憲一

新宿中学校では、土曜日の午前中に土曜スクールを行っております。年間15回開講し、希望する生徒が、自らやりたい学習道具を持参し自主的に学習に取り組みます。平成16年に始まった文部科学省の委託事業、「子どもの居場所」をつくるという活動。新宿中学校では「土曜スクール」が開講されました。スクールコーディネーターの田邊さんが中心となり、PTAの協力のもと、当初は月2回実施を目指して行ってきました。地元にある企業の社員、地域の方、本校の元教職員や大学生の方々がボランティアで講師となり、生徒の質問に答えるなど活動していただいています。

普段学校で教えてもらえない教員ではない方々にアドバイスをいただくことは、ただ学習を進めるだけではない「学び」があるようです。

下校後や休日の過ごし方や経験したこと、時には人生相談のような内容まで話をする生徒もいるようです。講師の方々も一方通行の指導ではなく、中学生との会話の中で新たな発見があったとおっしゃってくれることもあります。



年2回は小学生体験と銘打ち、近隣小学6年生も参加しています。中学生で行う学習を体験したり、小学生の復習問題に取り組んだりします。違う小学校の児童とともに学習に取り組むことは、「中学生になるのだ」という心構えを養うことにもつながっているようです。校内の施設見学も行い、進学先選択の一助にもなっています。

また、年1回お楽しみ会としてPTAの方々のご協力でカレライスを作っていました。学習のまともに昼食会を行っています。このときは土曜

スクール参加者だけでなく、当日部活動などで登校している生徒も一緒に楽しいカレライスをいただきます。「休日に、学校で、みんなで」食べるカレライスは一段とおいしく感じられます。学習を進めることはもちろん、他学年の生徒と同じ空間で行うこと、また教員でない講師の方々と触れ合うことは、生徒たちにとって正に「居場所」になっているようです。これからも生徒たちの様々な成長のためになる土曜スクールが続くことを願っています。

青少年育成委員会研修会に参加して

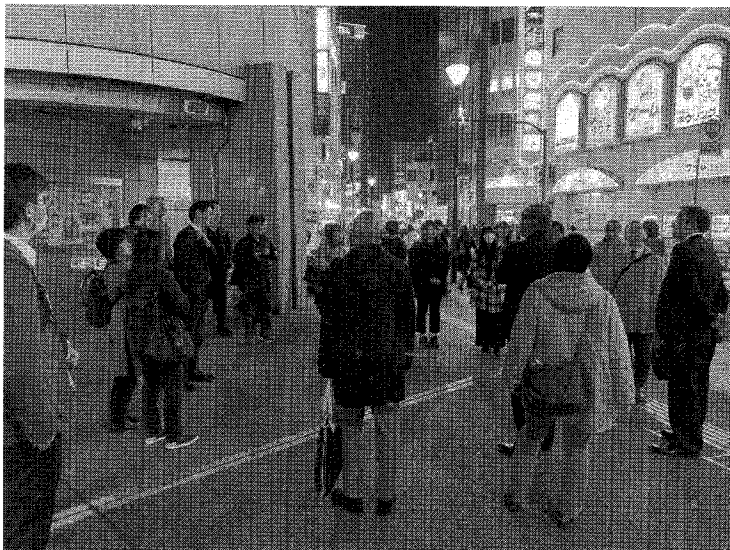
戸山小学校PTA会長 五嶋真里

11月15日に新宿警察署において開催された研修会に初めて参加をさせていただきました。「少年犯罪の概況と夜の歌舞伎町見学研修」として、先ずは警察から子供達が巻き込まれる様々な犯罪の実態を、具体的数字と共に詳しく説明をしていただきました。

非行と不良の違いとそれに対する警察の対応、また、昨年度は万引き、怠学、不健全行為、インターネットトラブルにおいて約1万7千人が補導された事、そして、振り込め詐欺や薬物事件における未成年者の逮捕人数等、実は日常生活のすぐ近くで犯罪が発生していて、それに巻き込まれる子供達がこんなにも沢山いるのだと、怖さを感じてお話ししました。

そして、子供達が気をつける事として、便利すぎるがゆえにトラブルに巻き込まれる、スマートフォンやオンラインゲームについて、注意する様に説明がありました。Twitterは隠語で買春のやりとりをしている場合があること、LINEはグルー

プ外しや無視をする等トラブルが発生しやすく、子供達はLINEも電話だと思いがちなため、スマホの向こうに相手がいて会話をしているつもりになってしまい、すぐに返信が来ないと不満に思ってしまう。しかし、LINEはバーチャルな手紙であって、親として「返信は相手の都合次第ですぐに來ないこともある」と言うことをよく理解させる必要があるとのことでした。また、「いいよ」というどちらとも取れる微妙な表現は、ニュースが反映されないので使わないようにするのが良いそうです。その他、SNS上に写真を撮って何でも気軽に載せないこと、オンラインゲームはゲーム上で知らない人と繋がる危険がありトラブルになるので気をつけること、セキュリティを考えることとメールの方が安心であることを教わりました。



そして、研修会の最後には、DVD上映があり、振り込め詐欺に関わって刑務所に入っている未成年男子の映像が流れました。軽い気持ちで誘われるがままに仲間になってしまったが、とても後悔しているとの告白映像は、子供を持つ親として沈痛な気持ちになるものでした。

講演会終了後は警察の方々と共に歌舞伎町見学を行い、夜の歌舞伎町について詳しく説明を受けることができました。町の歴史、犯罪の発生しやすい状況や場所、家庭に居場所がない子供たちの逃げ場等、夜の歌舞伎町全体の問題点が浮き彫りとなり、大久保地区の住民として、もつと沢山の方に自分の住まいのすぐ近くにある繁華街の現実

第9回 ここ・からまつりを終えて

去る11月10日(日)に、新宿ここ・から広場において、第9回ここ・からまつりを開催いたしました。今年は約3,300人の来場者があり、まつりを盛大に終えることができましたことは、地域の皆様のご理解とご協力があってこそと深く感謝いたします。

第1回のまつりから欠かさず参加して下さっている大久保地域見守り隊や大久保未来組の皆さん、そして子ども総合センター地域活動連絡会の方々には感謝の念が堪えません。また、大久保地域見守り隊のエンブレムにも採用されている新宿シンちゃんは今年も人気の的で、多くの子どもたちに取り囲まれ、賑わっていました。

地域の皆様や来場された方々からいただいた感想、ご意見、ご希望を参考に、来年の10周年開催に向けて、より一層準備に努めて参りたいと考えております。

をよく知って欲しいと思う内容でした。

今回の研修会は、地域で起こる犯罪や問題点を具体的に知ることができて、大変勉強になりました。青少年犯罪の実態を知るとは、自分たちの地域の安全対策について、家族だけでなく、地域と学校と保護者が共に協力しあい活動することが重要であるという事に結びつくのだと学びました。

最後に、この研修会を開催するにあたり、ご尽力いただきました青少年育成委員の新倉様、新宿警察署、そして、いつも子供達の安心安全のために活動をして下さっている青少年育成委員会の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

社会環境部



本当にありがとうございました。

子ども総合センター

子ども家庭支援課長 生田 淳

親子で楽しむボーリング大会

令和元年度育成部として一番大きなイベント「親子で楽しむボーリング大会」を、12月15日に実施しました。会場となったのは、高田馬場のビックボックス内にあるグランドボウル。参加人数は過去最大で、140人。

事前申し込みですから、締め切り終了時で「すごい！過去最高だ！」と部員全員で喜びました。でも、あとから考えてみるとボーリング場のキャパシティが30レーンで150人、もしあと10人以上参加者が増えたら、抽選作業が必要で、そうなったら大変です(例年は100人前後)。また、お知らせのチラシにも参加者多数の場合に抽選となる等の文章も入れていません。ですので、この参加人数は奇跡的なことなのです。大会そのものは大人数でしたが運営上のトラブルもなく無事終了しました。皆さん楽しい時間を過ごせたのではないかと思います。

今までに参加された方はご存知かと思いますが、お楽しみは約5人に一人の割合でもらえる、お土産的な参加賞です。日用雑貨が中心で、ラップやスポンジといったものです。今年は初めての試みとして、私の知り合いに米農家の友人がいて安くお米を分けてくれるということで、2kg入りのお米を25袋準備しました。野菜も少々分けてもらい、それを参加賞、お土産としました。この試みはどうかと心配していましたが、少々重たい帰り道となったかと思いますが、好評だったと思います。

会場の雰囲気はというと、家族で本当に楽しそう、みんなが喜んでいる顔を見ると、また、来年も頑張れるかなと思う次第です。

育成部のイベントは大久保小、戸山小、天神小各校で選出されたPTAの保護者と部長である私、そしてOB2名の副部長で構成されるわけですが、今年度は部長、副部長3名以外すべて新人運営するのも大会参加も初めてというメンバー。

すべての作業が初めてなので、部員の皆さんはかなり緊張したようでしたが、申し込み書の回収から始まって集計、レーンの割り振り、テキパキと的確に作業を進めてくれました。大会当日の大仕事である受付も、140人もの参加者に手際よく対応してくれました。育成部の部員の皆さんには、この場を借りて「お疲れさま」「ご苦労様でした」とお伝えしたいです。主催者として今年も大きなイベントが無事に終わって本当に良かったです。

育成部 水谷紀雄

「いっ・からまつり」に参加して

大久保未来組 小津真知子

このお祭りに参加して何回目になったでしょう！

地域の子とも達や親子、大人達がたくさん集まる楽しいお祭りです。

そのお祭りで私達「大久保未来組」はグラウンドで3曲踊りました。

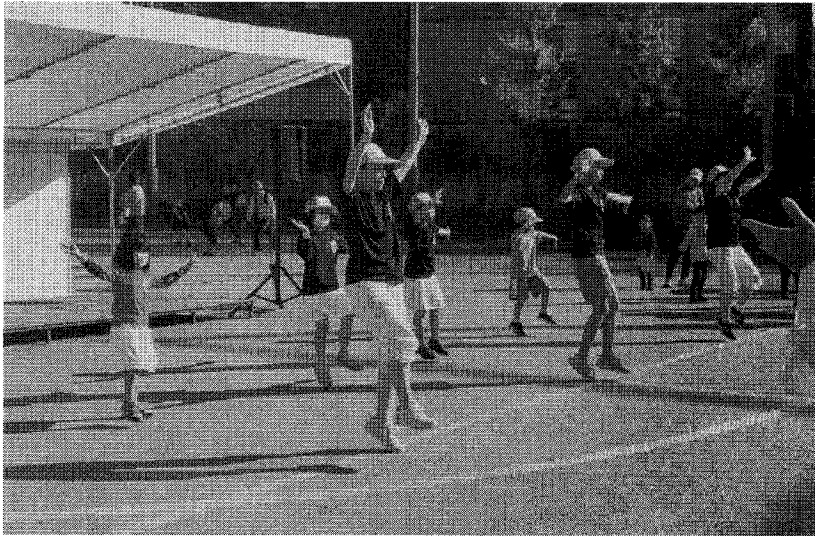
最初に小学校4年生女子が会を紹介し、みんな「天下祭り21」を踊り、その後、一人一人自己紹介しました。2曲目が「故郷の祭り」でしたが、4〜6歳の幼児も数名いる「大久保未来組」の踊りを皆さん暖かく応援してくれました。

最後は観客の小さい子や大きな子達にも声をかけ、今年大人気の「パプリカ」をみんなと一緒に踊りました。

今までは大江戸ダンスのみを踊っていましたが今年度からは子ども達が踊りたい曲も取り入れてみようとなり、その場が盛り上ったのは言うまでもありません。

大久保未来組は少しずつ、その時の子ども達の声や様子により変化してきました。

今年は少ない人数になりましたが、それでもみんな楽しんで、いろいろな行事をこなして行きたいと思っていますし、元気で、たくましい「大久保未来組」を目指して行きたいと思っています。いつも暖かく見守ってくださる地域のみなさま、本当にありがとうございます。これからも応援よろしくお願いします。

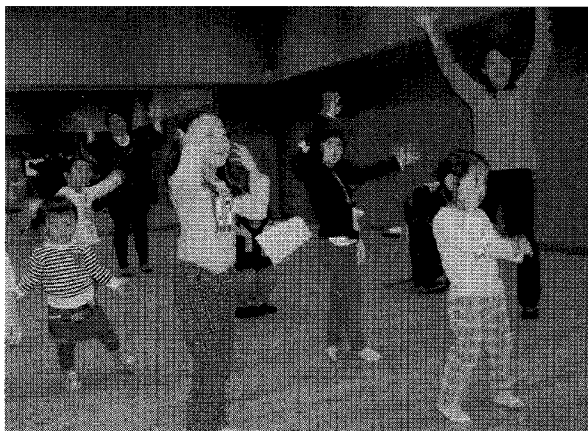


お母さんと一緒！お友達と一緒！ 楽しい親子合唱団！！

親子合唱団 団長 岩垂香澄

親子合唱団は月2回、大久保地域センターの多目的ホールでお母さんやお友達と一緒に歌や手話の練習をしています。赤ちゃんから小学校低学年までの幅広い年齢のお友達と、そのお母さんが参加しています。いつも練習が始まるまでは、広いホールを小さい子も大きい子も一緒に走って走り回っています。小さな遊戯室もあります。

練習した曲は年に2回、「五月まつり」と昨年は台風19号のため中止となっていましたでしたが、新宿文化センターで行われる「新宿ユース・ステージパフォーマンス」で歌っています。のんびりアットホームな



中で練習していますので、ぜひ親子で見学に来てみてください。現在5月に大久保地域センターで行われる「五月まつり」に向けて、「かえるの夜回り」「森のくまさん」「クラリネットこわしちやった」「パプリカ」を練習しています。